

■発行 京都府向日市役所
■編集 秘書課広報係
■電話 075(931)1111

向日市

おもな記事

- 三十二億円で住民福祉を推進
- 昭和四十八年度決算を認定
- 「高齢者養費」を支給
- 秋空に声援のこだま
- 財政事情の公表
- 昭和四十九年度上半期
- 十一月のお知らせ

昭和48年度決算を認定

32億円で住民福祉を推進

建設事業に四九セントをあてる

小学校・保育所用地を買収

昭和四十八年度決算が、第三回定例市議会認定されました。昭和四十八年度は、福祉の充実、新しいまちづくりにそった生活環境施設の整備など、日常生活に結びついた施策を、積極的に推進しました。

年度後半の物価の高騰、石油削減などにより、市の財政を圧迫、財政運営が大きく制約された年でした。しかし、急速な都市化から、生活環境施設の整備、社会福祉の充実など、市への行政需要がふえてきています。

こうした中で、昭和四十八年度は、①暮らしの環境整備、②文化と福祉の充実、③健康を守り高めるの三本



(決算説明する中山市長)

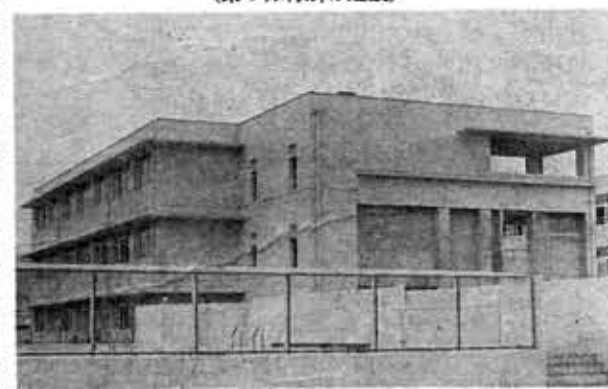
を柱に、きめ細かな施策を推し進めました。決算規模は、一般会計では、歳入三十三億九千四百七十三万円、前年度に比べ七十三万円、前年度に比べ十五億七千八百五十二万円、八六・九パーセントの増、歳出は三十二億九千八百八十五万円、前年度に比べ十五億二千八百万円、八六・一パーセントの増となり、実質収支では、七千五百八十八万円、前年度に比べ、二千九百七十二万円の黒字決算となりました。

前年度に比べ、大きな増加を示した原因は、第五向陽小学校と第六保育所の用地買収などがあつたためです。歳出の決算構成比では、教育費が四五・六パーセントとトップを占め、ついで民生費の一七・六パーセント、総務費八・九パーセント、衛生費七・八パーセント、土木費七・七パーセント、公債費五・〇パーセントの順となりました。

また、性質別では、普通建設事業などの投資的経費四九・〇パーセント、人件費二一・七パーセント、補助費等九・九パーセントを含めた消費的経費四四・二パーセント、その他の経費六・八パーセントとなりました。一方、歳入では、市債が三五・三パーセントと市税の三三・九パーセントより高い比率を占めました。このことは、第五向陽小学校と第六保育所の用地買収によるためです。ついで、地方交付税一〇・七パーセント、



(第6保育所の建設)

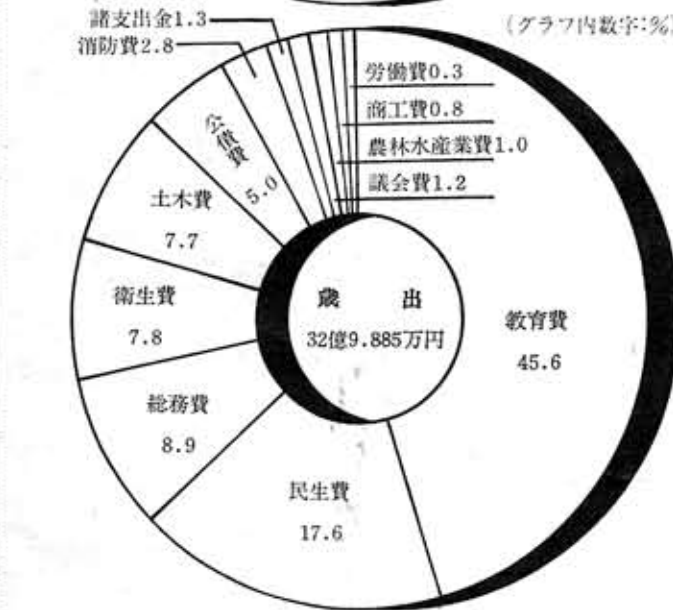
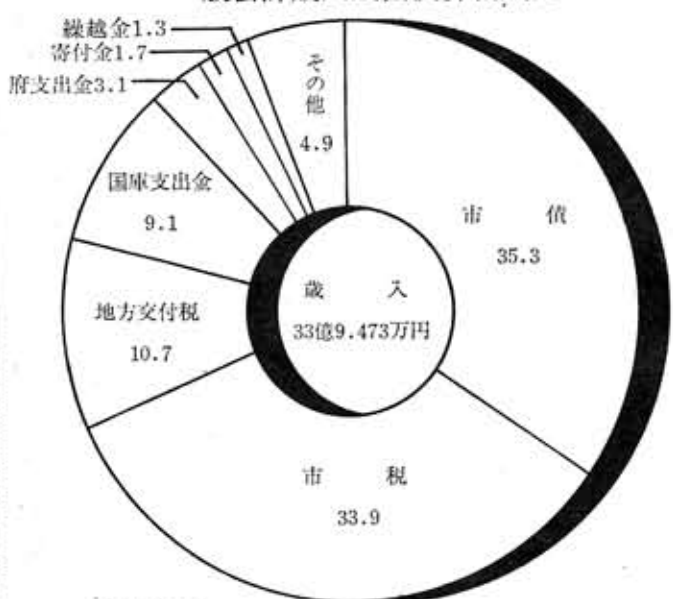


(第4向陽小の増築とプールの建設)

市債(事業を行うときの借金)が、市税よりも高い比率を示したのは、用地買収を行ったためですが、その返済によるしわよせが、今後の財政運営に大きな影響を与えることが予想され、国庫補助制度の改善による超過負担の解消要望など、財源措置を強く国に働きかけていきます。

(物集女公民館の建設)

一般会計歳入歳出決算構成比



おもな事業は

決算のうわげ

昭和四十八年度のおもな事業は、第五向陽小学校の用地買収(八億九千四百四十四万円)、向陽小学校の改築(八千二百六十三万円)、第三向陽小学校屋内体育館の建設(六千二百二十四万円)、第四向陽小学校の増築・プール建設(八千三百二十四万円)、物集女公民館の建設(五千四百九十二万円)、第六保育所の用地買収と建設(一億七千七百八十七万円)、寺戸川都市下水路改修(三千六百二十二万円)、河川および排水路改修(三千六百八十一万円)、老人福祉年金の新設、成人病検診の無料化などに取り組みました。



(寺戸川都市下水路の改修)



(物集女公民館の建設)

“生活の一部にしよう 火の点検”

▶ 秋の火災予防運動 11月26日～12月2日 ◀

火災シーズンがやってきました。ちょっとした火の不始末から、家はもちろん、家財道具全部焼けてしまった、といったことにならないように、家族みんなで、防火に努めましょう。また、慣れた火の扱いは十分に注意しましょう。

・消防本部・

